

誤用分析を始める前に、データソースを明らかにしておく。分析に用いた誤用文は、すべて筆者が教鞭をとっている台湾東海大学の学生が作った用例である。学生たちは第二外国語として日本語を選択したものであり、最初の可能表現である「～ことができます」を習うまでに約100時間、可能動詞までに約150時間（注1）の学習を積んでいる。

中国語には大きく分けて二つの可能表現があるといえる。助動詞によるものと可能補語によるものである。（注2）学生が使用している大新版「にほんごのきそI」には単語の導入の際、簡単な中国語の翻訳がついている。

（注3）18課の新出単語である「できます」には「會，可以，能」という中国語が与えられているが、この三つは助動詞で、中国語の可能表現の中心となるものである。

この三つの助動詞はそれぞれ可能の意味があるとはいえ、各々の用法には微妙な違いがある。ところが、中国語を母国語とする学生でも、いやそれゆえというべきかもしれないが、その違いを分析的に理解しているものは少ない。（注4）その結果、日本語の可能表現を理解し、運用していく際にも、母国語の干渉を強く受けた間違いをおかすことになる。以下、学生の誤用例を紹介しながら、中国語との比較分析を行っていきたい。

1. 許可をあらわす「可以」との混同による誤用

1-a. 「可以」の発想に基づく誤用例

可能動詞の導入が終わった段階で学生に用例を作らせたところ、次のような誤用が続出した。

- a. 私はあなたの自動車で運転できますか？
- b. お金がないから、クレジットカードが払えますか？
- c. 私はこのいすにすわれますか？

d. ここに自動車をとめられますか？

助詞等の間違いはこの際問わないことにしても、このままでは意味不明瞭な、或いは不自然な日本語といえよう。そこで各学生に中国語を併記させて表現意図を確かめたところ、(注5)

a. 我可以開伙的車嗎？(あなたの車を運転してもいいですか？)

b. 我没帶現金、可以用簽帳卡付帳嗎？(現金がないのでクレジットカードで払ってもいいですか？)

c. 我可以坐這張椅子嗎？(この椅子に座ってもいいですか？)

d. 這裡可以停車嗎？(ここに車を止めてもいいですか？)

という答えが返ってきて、それぞれ「可以」の発想に基づく文であることが判明した。それをまた筆者が表現意図に沿って訳すと()の中のような日本語になる。つまり学生は「～てもいいですか」のつもりで可能表現を使用しているのである。

1-b. 誤用原因の分析

では何故このような混同が起こったのであろうか？

それは「可以」には可能のほかには許可をあらわす用法もあるからである。例えば「這裏可以抽煙嗎？」といった用法で、上記の筆者訳のように「～てもいいですか？」と訳すとぴったりくる。事実、大新書局では「にほんごのきそI」のほかにもこれに準拠した中国語による文法解説付きテキストも出しており、学生がよく活用しているが、この中では「～てもいいです」に対して「可以」を使って訳している。例をあげてみよう。(注6)

a. このテープレコーダーを使ってもいいです。(用這個錄音機也可以)

b. もう帰ってもいいですか。(可以回去嗎？)

—はい、いいです。(可以回去)

—いいえ、いけません。(不、不可以)

それに対し、「可以」を使って訳した可能表現は以下の如くである。

c. 受付で切手を買うことができます。(在服務台那裏可以買郵票)

d. この水は飲めます。(這水可以喝)

e. 切符はすぐ買えますか。(票馬上可以買得到嗎？)

a, bは15課、cは18課、d, eは26課の用例である。ところが「可以」の方からこれら3課の用法の違いをまとめて説明した箇所はない。そのため学生は「～てもいいです」＝「可以」、「可能表現」＝「可以」と中国語と対応させてそれぞれの表現を理解したのち、頭の中で「可以」＝「～てもいいです」＝「可能表現」という逆転した図式を作ってしまったものと考えられる。そこで「可能表現を使って用例を作りなさい」といわれた時、許可表現を「可以」を使って発想した後、機械的に可能動詞に置き換えていった結果が上記の誤用例なのである。

1-c. 日本語自体の持つ問題点

しかし中国語ならずとも、日本語の可能表現と許可表現も重なってくる部分がないわけではない。例えば、「にほんごのきそI」18課練習B・4-10には「事務所のタイプを使いません」という文を「～ことができません」を使って言い換える問題がある。例の指示するままに助詞「を」をそのまま残して「事務所のタイプを使うことができません」という文を作ったとして、この日本語は一体どういう状況で使われるのだろうか？もしタイプに問題があって使えないのであれば「事務所のタイプは使うことができません」というべきであろうし、もし学生は使用してはいけない、という意味であれば「学生は事務所のタイプを使うことができません」或いは「事務所のタイプを（は）学生が使うことはできません」というべきであろう。ところが、初級者たちにこうした助詞の使い分けを説明すると反って混乱を招きやすい。そこで教師は「事務所のタイプを使うことができません」という座りの悪い日本語のまま、「この文は可能とも（許可の否定としての）禁止とも解釈できる」と説明する。こうして学生の頭の中の「可以」＝「～てもいいです」＝「可能表現」という図式はますます固まっていくのである。

1-d. 解決方法

ではどうすればいいのだろうか？筆者が試みた方法は、「～てもいいです」導入の段階で学生になるだけ多くの用例をつくらせて誤用分析した後、解説してみせる、という方法である。すると、すでにこの段階で可能の意味を

「～てもいいです」の文型に託そうとするものが少数ながらも存在することがわかった。そこでそれらの例を引きながら、「～てもいいです」は「可以」ほど意味範囲が広くないことを強調した。さらに「できます」導入の際も「～てもいいです」との違いを用例をあげつつ説明した。その結果、「できます」導入直後の用例調査では「～てもいいです」と「できます」の混同例は見当たらなかった。（注7）

2. 禁止表現と否定形の可能表現との混同による誤用

1でも少し触れたが、「～てもいいです」の否定形は「～てはいけません」という禁止表現になる。この点は「可以」も同じである。許可の意味の「可以」の否定形「不可以」は禁止を表す。もしも可能の意味ならばその否定形は「不能」という形をとる。ただ中国語の場合、禁止の「不可以」を使うべき時でも「不能」で済ませる傾向があるようである。（注8）そのためか、可能動詞の否定形を使った学生の用例にも「～てはいけません」の意味で使っているのではないかと思われる例が多い。

- a. 子供はお酒が飲めません。
- b. 学生は教室の中でタバコを吸えませんが。
- c. このレポートは中国語でかけません。
- d. ご飯を食べたあとで、寝ることができません。

そこで、当人に中国語を併記させて表現意図を確かめたところ、a～cは「不可以」を使った明らかな禁止、dは「不能」を使っているものの「寝付けない」という意味ならば「睡不找」という可能補語を使うのが自然なので、やはり禁止の意図であることが判明した。日本語でも口語では「子供はお酒が飲めないんだよ」といった表現で柔らかかに禁止を促す場合も多いし、立て札等でも「ここから先には進めませんが」というように否定の可能表現を使いながら真の意図は禁止にある、ということもあるからこの問題は一筋縄ではいかない。（注9）しかし、初級の場合は否定形の可能表現を使った禁止表

現の用例にはなるべく触れず、まずきちんと「禁止」＝「～てはいけません」を定着させた方がいいのではないか。そして、中級に達し語彙も増えたところで場面設定のはっきりした会話、或いは文章を使い、禁止表現のヴァリエーションの一つとして否定形の可能表現を理解させた方が誤用を防げると思う。

3. 蓋然性の「會」と能力の「能」の混同による誤用

「可以」と用法の重なる点の多い「能」については後にまわすことにして、先に「會」をめぐる誤用について述べよう。「會」にも可能の意味があるが、生得的な能力による可能を表す「可以」「能」に対して、「會」の可能は練習の結果会得した能力について用いられるようである。(注10)ただこの両者の微妙な違いは日本語には影響しないので、ここでは深く触れない。問題は「會」には起こり得る、あり得る、といった蓋然性を表す用法があって、この用法との混同による誤用例がみられるという点である。(注11)例をあげてみよう。

- a. たくさん豚肉を食べたら背が高くなります。
- b. あなたは彼が心配することができますか？
- c. 外国へ行ってから、あなたは私に手紙をかけますか？
- d. 今晚あなたは私に電話をかけられますか？

当人のつけた中国語訳を筆者が訳してみると次のようになる。

- a. 只要多吃肉、你會長高。(肉を沢山食べさえすれば背が高くなるでしょう)
- b. 你會担心他嗎？(彼のことが心配ですか？)
- c. 到了外国以後、你會寫信給我嗎？(外国に着いたら手紙をくれますか？)
- d. 今天晚上你會打電話給我嗎？(今晚電話をくれますか？)

こうしてみると「會」の訳し方は変幻自在である。しかも学生にとって、「くれますか」「なるでしょう」といった微妙なニュアンスを含んだ表現はなかなか自分では思い付けないものである。試みにdの中国語を200時間を超える学習を積んだ中級クラスの学生17人に翻訳させてみたところ、結果は以下の如くであった。

- | | |
|------------------------------|-------|
| a. あなたは今晚私に電話をかけますか？ | …… 6人 |
| b. こんばん私に電話をかきますか？ | …… 1人 |
| c. 今晚私を電話しますか？ | …… 1人 |
| d. こんばんあなたは私に電話をかけることができますか？ | …… 1人 |
| e. 今夜あなたは私に電話をかけられますか？ | …… 1人 |
| f. こんばんあなたは私に電話をかかれますか？ | …… 1人 |
| g. 今晚あなたは私に電話をかけてできますか？ | …… 1人 |
| h. 今晚あなたは私に電話を掛けるできますか？ | …… 1人 |
| i. こんばん私が電話をかけられますか？ | …… 1人 |
| j. 私に今晚電話をかけてあげましょうか？ | …… 1人 |
| k. 今晚あなたは私に電話をかけてくださいますか？ | …… 1人 |
| l. 無回答 | …… 1人 |

正解はkのみ、しかもd～iの6名は可能表現を使おうとしている。指導の難しさを痛感するが、少なくとも可能表現導入の段階で、日本語の可能表現では蓋然性を表す「會」の意味は表しきれないことをしっかり確認しておく必要がある。

4. 「能」をめぐる誤用

「能」と「可以」の意味は似通っており、かなりの互換性があるようである。(注12)しかし、「能」をめぐる誤用には「可以」の場合ほど顕著な特徴を見出だせない。そこで、個々の誤用例をあげながら簡単に誤用の原因を分析しておく。

4-a. あなたに質問が聞けますか？

当人の付けた中国語訳は「我能問你問題嗎？」である。これは1の「可以」と同じく許可の「能」と可能の「能」を混同した例で、「質問してもいいですか？」とでも訳すべきところ。ただ可能と許可の混同例は「能」の場合「可以」ほどは多くない。これは許可の意味の時は「可以」を使うことの方が多いためと考えられる。

4-b. 私は先週あなたが買ったカメラが見られますか？

当人の付けた中国語訳は「我能看看你上星期買的照相機嗎？」で、全くの誤用とはいえないものの、かなりの直訳調である。「先週買ったカメラを見せてもらえますか？」と可能動詞「もらえる」を使えば一番表現意図に近いが、「見せてくれませんか」といってもいいだろう。しかし3でも述べたように、授受表現は学生の多いに苦手とするところである。他にも次のような例がある。

4-c. どうして彼は楽しくなかったですか。あなたは私に教えられますか？

当人の中国語訳は「你能告訴我他為什麼不快樂嗎？」で「彼はどうしてつまらなそうにしていたのか、教えてくださいませんか？」といった意味だが、「つまらない」も「そうだ」も未学習である。そこで「楽しい」「悲しい」等の感情をあらわす形容詞は第三者には使えないことを忘れて（或いは知らずに）、逐語訳したのであろう。

5. 問題点とその解決方法

以上、可能表現をめぐる誤用を四つのタイプに分類して誤用の原因を考察してきた。最後に全体を通して指摘できる問題点と、その解決方法について述べておく。

外国人学習者が誤用をおかす際、母語の干渉というのは非常に大きな要因であろう。しかし、何故母語の干渉を受けるかということ、筆者の学生の場合

は既習の語彙や文型の範囲内で考えようとせず、先に中国語で発想してから一語一語日本語に翻訳しようとするためなのである。

こうした学生の態度は、教師がどういう教授法をとるかということと大きく関係している。筆者自身反省しなければならない点も多いのだが、新しい文型導入の際、既習の語彙を文型にあてはめるだけの練習を機械的に繰り返し、表現として用いる時の意味上の制限条件についての説明を怠ると学生の語感が培われない。語感のない学生は公式にあてはめるような具合で文を作る。気付いた場合はその場で訂正、説明するが、1クラス35人の現状では授業中にすべての学生に発話の機会があるとは限らないので、こうした誤用を見逃してしまう場合もある。

また教師によっては、なるだけ学生の発話意欲をそがないために、たとえ不自然な日本語であったとしても文法的な接続さえ正しければ故意に見逃す場合もあるようである。時には教師自身それが誤用であるという感覚のない場合もある。

こうした教師側の問題に加え、学生の方でも中学以来の英語学習で身に付いた文法重視の翻訳法からの発想の転換が図れない、多くの熟語を共有することで、外国語としての日本語に対する警戒心が鈍っている、言語に対する分析的思考の習慣がない、等の問題を抱えている。また外国であるため自然な日本語に接する機会が少ないという語学環境の問題も大きい。

それではどうすればいいのであろうか？もちろん究極の理想はすべての教師が日中両語に優れ、対照言語学の知識を援用しつつ直接法で教授することであろう。しかし、それほど理想的な教師がニーズに応えるだけ存在するわけではない現在、何が一番有効な手段であろうか？

それは中国人教師と日本人教師の意見の交流であると思う。ちなみに東海大学では1990年の日本語教員13名（専任4名）の内、日本人は専任1名、非常勤1名の2名であった。教授法をめぐる意見の交換が公式的になされる機会はなく、他の教師がどのような教授法を取っているのかもさだかではなかった。1991年度は日本人が4名（専任2名）に増えたこともあり、年5回の会議を予定。9月の第一回会議では動詞活用の呼称の統一、発音指導の問題点等が話し合われた。こうした会議を通して両国の教師が誤用につ

いて討論することは、両者にとって非常に有用であると信じる。

また中国人と日本人が協力して、中国人学習者のための独自のテキストを開発する必要もある。その際、誤用研究や対照言語学研究成果を文型の配列に生かすことが望ましい。(注13)

個人としてはまめに用例を作らせ誤用をチェックする方法が有効であろう。東海大学の専任の場合35人のクラスを5クラス、合計170人余りの学生を受け持たねばならないという条件のなかで、個々の誤用を発見していくのはなかなか気骨が折れるが、なるだけ早い段階で発見、指導してやりたい。さもなければ、自然な日本語を耳にする機会の少ない外国での学習者が、誤用と別れられる日は永遠に来ないであろう。

- 注1 一週間に3時間(正確には150分)の授業が実質的に年27週で81時間、「～ことができます」は二年めの8週め、可能動詞は17週めに学習するとしての計算である。
- 注2 可能補語とは「看得懂」「看不懂」のように動詞の間に「得」「不」を入れて可能、不可能を表す用法である。日本語教育関係では大河内康憲「中国語の可能表現」(日本語教育41号)に詳しい説明がある。
- 注3 これは大新書局という台湾の出版社が海外技術者研修協会編の「にほんごのきそI」及び中国語訳をもとに一冊に編集し直したもので台湾では最も流布しているテキストである。なお東海大学では1990年9月の一年生からは「しんにほんごのきそI」に切り替えた。
- 注4 台湾人の多くは家庭では台湾語、学校を始めとする公的な場では北京語という使い分けをしている。台湾語と北京語の違いは日本語の方言と標準語の違い以上に大きいので、台湾人にとって北京語は厳密な意味では母語といえない。そこでここでは敢えて母国語という一般的な言い方を使った。
- 注5 今回の用例調査では当人の表現意図を確かめる意味で中国語の訳を併記させた。普段の授業では筆者の方から積極的に中国語を与えることはしていない。

- 注6 「日本語の基礎Ⅰ（附文法註解）」といい、「にほんごのきそⅠ」の本文及び本文、単語の中国語訳のほか中国語による簡単な文法解説が付いている。今回参考にしたのは1987年7月発行の三版である。
- 注7 今回の誤用例は可能動詞まで学習済みの二年生クラスのものである。二年生クラスの失敗を繰り返さないように、一年生クラス（「しんにほんごのきそⅠ」を使用）では「～てもいいです」及び「できます」導入の段階で用例による誤用チェックを行ったのである。その結果、多くの「～てください」との混同例を発見した。この件についてはまた別の機会に論じたい。
- 注8 藤堂明保・相原茂「新訂中国語概論」（大修館書店1985年）124頁参照
- 注9 寺村秀夫「日本語のシンタクスと意味Ⅰ」（くろしお出版1982年）260頁に受動的可能表現の例として「（34）危険物ハ持ちコメマセン（許容・禁止）」という文が取り上げられている。こうした観点からも日中語の比較をしていくとおもしろいものが出てくるだろうと思う。
- 注10 注8に同じ
- 注11 湯廷池は「国語語法研究論集」（学生書局1979年）所収の論文「助動詞『會』的兩種用法」の中で「能力的會」「預断的會」という名前で「會」の二つの用法を説明している。ここでは藤堂（注8）の命名に従った。
- 注12 藤堂（注8）123頁参照
- 注13 林長河「視聽応用日本語Ⅰ」（銘傳管理学院1991年）や中道真木男「現代日語会話」（NHK国際局中国班1990年）等、登場人物が中国人であったり、会話の内容が日中文化比較に及んだりしている教材は開発されつつある。

（台湾／東海大学）